

Newsletter for JADR

I. 第36回 IADR 韓国部会 (KADR) 学術大会に参加して

JADR 会長 山崎 和久

(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

KADR と JADR は相互交流活動の一環として、毎年それぞれの学術大会に相互に invited speaker を招聘し、学術交流を行っております。第65回 JADR 学術大会は、昭和大学の上條竜太郎大会長の下、2017年11月13、14日の両日昭和大学旗の台キャンパスで開催されましたが、同学術大会には KADR からの invited speaker として Seong-Ho Choi 先生 (KADR President, Department of Periodontology, College of Dentistry, Yonsei University) が、"Functional regeneration of the damaged teeth using novel fusion technique" のタイトルで講演されました。

一方、今年の第36回 KADR 学術大会は12月2日にソウルの延世大学で開催され、本年度は私が JADR からの invited speaker ということで講演の機会を頂戴することとなりました。KADR 会長から学術大会前日に開催される KADR 役員との夕食会にお招きいただいたことから12月1日にソウルに向かいました。空港では Jun-Beom Park 先生 (Department of Periodontics, The Catholic University of Korea) の出迎えを受け、

ソウル名物の交通渋滞を避けるため地下鉄を使って懇親会の会場に直行いたしました。5度目の訪韓、しかも KADR の現会長 Seong-Ho Choi 先生は歯周病学講座教授ということもあり、日本歯周病学会でもおなじみの Young Ku 先生 (Department of Periodontology, College of Dentistry, Seoul National University) をはじめとして2016年の IADR ソウル大会の実務を取り仕切った Byung Moo Min 先生や KADR 現役員、功労者の先生方にも知己のある方々が多く、大変和やかにそして楽しく過ごすことができました (写真1)。同席されていた歴代の役員の方の中には日本に留学経験をお持ちの方も多く、KADR と JADR の長く深い繋がりを改めて知ることになりました。第65回 JADR 学術大会へのご協力の御礼を申し上げ、来年の札幌大会にも多くの先生方、学生さんにも参加いただけるようお願いしました。一次会が開きになった後は、現役員の方とともに二次会に繰り出し、ソウルの夜を堪能させていただきました。



写真1

翌 12 月 2 日は朝から快晴で絶好の学会日和となりました。学術大会は延世大学のホールを使って行われました（写真 2）。開会前の短い時間ではありましたが、Choi 先生に延世大学歯学部（Department of Dentistry, Yonsei University）の歴史を展示した施設や病院を案内していただきました。アメリカ歯科医師会の協力により韓国で最初に作られた歯科診療施設が延世大学の基になっていることを知りました（写真 3）。10 時に Choi 会長による開会の挨拶に引き続き、私が “Periodontal disease and systemic diseases; Lessons from human and animal studies” というタイトルの講演をさせていただきました。その後いくつかの特別講演がありましたが、すべて韓国語での発表ということもあり、Young Ku 先生が “歴史的な場所に行こう” と誘ってくださりました。そこはソウル国立大学歯学部の前身である京城歯科医学校の跡地でした（写真 4）。その夜は新たに KADR の会長となった Jin-Bom Kim 先生（Department of Preventive and Community Dentistry, Pusan National University）ら新旧の KADR 執行部の先生方との夕食会に臨み、再び楽しい夜を過ごさせていただきました。韓国と日本の歯学部、歯科事情の違い、比較などの話で盛り上がり、時間を忘れてしまうほどでした。



写真 2

今回 JADR の代表として再び KADR の学術大会で講演の機会を与えていただいたことにより、韓国における歯学研究の潮流、そのレベルの高さを改めて実感することができました。しかし近年ではコンビニよりも歯科診療所が多い、入試の難易度が低下した、研究費の獲得が年々困難になっている等々、日本と同様の問題に直面していることも教えてもらいました。最後に JADR と KADR は緊密な連携をとって IADR におけるプレゼンスをさらに高める必要があるとの認識で一致し、今回の JADR 大会、KADR 大会での再会を誓いソウルを後にしました。



写真 3



写真 4

II. 第65回JADR学術大会報告

1. 第65回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会を終えて

大会長 上條 竜太郎
(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

第65回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会を昭和大学で開催するにあたり、ご高配を賜りました山崎和久会長はじめ理事の先生方ならびに会員の皆様に深謝いたします。皆様方のご尽力により、総計204もの演題数{基調講演:1, 特別講演:4, シンポジウム3件:11, Hatton Award候補者演題:3, 一般演題:183(うち国外から54件), ランチョンセミナー2件:3}となり、参加者は341名に上りました。大会を盛り上げていただきました全ての会員の皆様に心より御礼を申し上げます。伝統あるJADRの総会・学術大会を昭和大学が担当させていただくのは初めてのことでございましたが、大過なく大役を務め上げることができ、胸をなで下ろしているところでございます。

本大会は歯科医学研究がこれから進むべき方向性を示すことを目的とし「Forefront of Dental Science – Toward the Global Standard in Medical Science」をテーマとして企画をさせていただきました。京都大学の森和俊教授の基調講演では、小胞体における分泌タンパク質の品質管理機構について、*in vivo*におけるコラーゲンのミスフォールディングのデータなど最新の知見を交えながらわかりやすくご講演いただきました。また、国際歯科研究学会(IADR)のAngus W. G. Walls会長、国際歯科研究学会韓国部会(KADR)のSeong-Ho Choi会長、国際歯科連盟(FDI)学術委員会のHarry-Sam Selikowitz委員長、フィンランドアカデミー会員/米国科学アカデミー外国人客員会員のIrma Thesleff先生には特別講演におきまして、歯科医学を取り巻く世界の動向や歯科研究の最先端のトピックスなどをお示しいただきました。3件のシンポジウムに関しましては、それぞれのモデレーターの先生方から報告をしていただいておりますが、いずれのシンポジウムも大変興味深い内容で、歯周病、宇宙医学、iPS細胞といった多岐にわたる研究分野を包括して聴くことができたのも本大会の醍醐味であったのではないかと考えております。

本大会は、昭和大学の旗の台校舎を会場としたため、手狭な会場や、各会場への移動などご不便をおかけした点多々あったのではないかと思います。またあいにくの空模様ではございましたが、その代わりに活発な討議をしていただけたのではないかと感じております。ご参加いただいた全ての方々にとって、本大会が有意義なものであったことを祈念しております。

最後になりますが、本大会の企画から運営までをやり遂げてくれた教室員、そしてお手伝いいただいた昭和大学の他講座の方々感謝いたします。また、本大会に参加していただきました全ての皆様方に心より御礼を申し上げまして、本大会の報告とさせていただきます。

2. Symposium I Cutting-edge Etiology of Periodontitis: Next Sights for Host-parasite Interaction

高柴 正悟
(岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野)

この度、Cutting-edge Etiology of Periodontitis: Next Sights for Host-parasite Interactionと題してSymposium Iを担当させていただきました。口腔の常在細菌叢から歯周病を起こす細菌叢と変化する細菌叢と私たちの身体において、病原性を持つ細菌側とそれを受けて反応する生体側を、研究の第一線で活躍されている若手とベテランの研究者に語っていただきました。

岡山大学の中山真彰先生には、Functional of the virulence factor from periodontal pathogens on periodontal diseasesというタイトルで、生体細胞へのadherence, invasion, そしてdamageの観点から細菌の各種タンパクについて纏めていただきました。細菌体からの分泌タンパクも絡めて、興味深いものでした。

新潟大学の前川知樹先生には、Genetic and intervention studies implicating keystone pathogens as a major target for the treatment of periodontitisというタイトルで、歯周病原細菌の*Porphyromonas gingivalis*が感染することで補体のC3を活性化して病原性を示すことからC3をターゲットとして補体系の活性化を抑制する薬物を用いて歯周病を抑制する*in vivo*研究を、国際色豊かに発表していただきました。

最後に奥羽大学の太田光宏先生には、Paradigm shift in periodontal treatment: Periodontitis-associated fibroblasts (PAF) as novel targets?というタイトルで、歯周病発症の原因を歯肉線維芽細胞に求めた研究を、先端的な研究者のネットワークで展開されている様子をお話いただきました。特に、FANTOM (Functional Annotation of the Mammalian Genome) プロジェクトとの関係はととても刺激を受けました。

こうして、細菌と生体の反応を多角的に捉えていくことで、歯周病との付き合い方の新たな考え方が生まれるのではないかと考えた次第です。まさにcutting-edgeを垣間見ました。

3. Symposium II

Life Science in Space - Biomedical Researches performed in the International Space Station
宇宙における生命科学 - 国際宇宙ステーションで実施された生命医学研究

工藤 明

(昭和大学歯学部客員教授)

宇宙空間において、無重力の影響によって骨量減少と筋萎縮が起きることは、これまでの宇宙飛行士の診断によってよく知られている事実である。一方、無重力がどのように影響してこのような生理現象が起きるのか、そのメカニズムはよくわかっていない。国際社会は共同で国際宇宙ステーションを建設し、微小重力下の生命医学研究を推進してきた。本シンポジウムは、この国際宇宙ステーションで実際に行われた生命医学研究を紹介し、今後人間がどのように宇宙と付き合うのかを考えるとともに、歯科領域における宇宙医学研究を推奨する目的で実施された。

最初に工藤はメダカにおける微小重力下での骨量減少というタイトルで、国際宇宙ステーションにおけるメダカの2か月にわたる長期飼育実験の実際と、その結果として、メダカの歯を支える歯足骨の骨量が20%余り減少したことを報告した。次に白川正輝先生(宇宙航空研究開発機構)は、国際宇宙ステーション/日本実験棟「きぼう」における水棲生物実験と軌道上運用というタイトルで、日本が国際宇宙ステーションで主導的に行っている生命医学研究について紹介した。松本俊夫先生(徳島大学)は、宇宙飛行における骨量減少とその防止対策というタイトルで、宇宙での骨量減少のブロックにビスフォスフォネートが効果があったことを示し、今後の火星探査のような長期の宇宙旅行でもこの薬剤が使える見通しを紹介した。三川 健先生(徳島大学医学部)は、無重力による筋萎縮の分子メカニズムというタイトルで、筋萎縮について、宇宙実験で発見した分子メカニズムを示すとともに、現在取り組んでいる筋萎縮をブロックする応用研究について紹介した。財津 崇先生(東京医科歯科大学)は、宇宙・極地環境における口腔疾患と口腔健康管理というタイトルで、これまで行われた宇宙実験において、歯の領域に関するデータを総括した。

4. Symposium III

Advances in iPS cell research and its application to dental medicine

馬場 一美

(昭和大学歯学部歯科補綴学講座)

山中伸弥教授等によってマウス胚性繊維芽細胞に4つの因子(Oct3/4, Sox2, c-Myc, Klf4)を導入することでES細胞のように分化多能性を持つマウス人工多能性幹細胞(iPS細胞: induced pluripotent stem cell)が開発され、さらに、ヒトの皮膚からも同様に多能性幹細胞を生成する技術が開発されてすでに10年以上のときを経過している。iPS細胞技術は再生医療の分野で大きな役割を担ってきたばかりでなく、疾患特異的iPS細胞とよばれる患者から樹立したiPS細胞を用いた疾患メカニズム解明にも利用されてきた。

本シンポジウムでは、まず、座長の馬場より「Disease modeling for sleep bruxism using patient-specific iPS cells」と題して、昭和大学における疾患特異的iPS細胞を用いた睡眠時ブラキシズムの疾患モデル構築と、創薬への取り組みについて紹介させて頂いた。引き続き、順天堂大学・赤松和土教授から「Patient-specific iPS cells for neural disease modeling and drug screening」と題して、パーキンソン病を初めとした難治性神経疾患を対象とした取り組みについて講演があった。特に、従来、膨大な時間とコストを要していたiPS細胞樹立、神経幹細胞への誘導をハイスループットで効率的に行う最先端の技術、これらを用いた疾患メカニズム解明、Drug screeningの実際をご紹介頂いた。最後に東北大学・江草宏教授から「iPS Cell-Based Strategies in Bone Tissue Engineering」と題し、歯肉線維芽細胞から作製したiPS細胞を基盤とした骨再生・補填技術について、臨床応用を想定した戦略、将来の展望について解説頂いた。

iPS細胞を用いた再生医療、疾患メカニズムの解明、創薬へ向けた研究は国家プロジェクトとして我々の予想をはるかに上回る速度で進化し続けている。本シンポジウムがiPS細胞技術の最先端とその大きな可能性を皆様と共有できる機会となったのであれば幸いである。最後に、このような機会を下された大会長の昭和大学・上條竜太郎教授、ならびにJADR会員の皆様、ご講演頂いた両先生に心より御礼申し上げます。

III. 2017年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞して

1. 2017年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞して

青木 栄人
(東京歯科大学歯周病学講座)

この度、東京で開催されました第65回 JADR 総会・学術大会において、発表させていただきました「Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs」という演題に対し、2017年度 JADR/GC 学術奨励賞を受賞いたしました。このような名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。学会会員ならびに諸先生方に心より御礼申し上げます。

現在、歯周炎の治療においては、十分な量の歯槽骨の再生を含めた予知性の高い歯周組織再生が課題となっています。iPS細胞は、組織再生における移植細胞のソースとしての応用が期待されている材料の一つです。RUNX2は骨芽細胞分化に必須の転写因子であり、これまでに未分化間葉系細胞や前骨芽細胞からの骨分化における役割については多くの研究がされてきました。しかしながら、iPS細胞からの骨芽細胞分化過程における RUNX2の作用については未だ明らかにされていない点が多く存在します。そこで今回、我々は *Runx2* ホモ欠損マウス由来 iPS細胞を作成し、骨芽細胞への分化過程における RUNX2の役割を解明することを目的に研究を行いました。

本研究において、同一母体からなる *Runx2*^{-/-}、*Runx2*^{+/-} miPS細胞の樹立に初めて成功しました。骨芽細胞への分化誘導実験より、miPS細胞からの骨芽細胞分化においても、未分化間葉系細胞などの既存細胞と同様に、分化初期には *Runx2* 非依存的な経路が存在することが示唆されました。また、遺伝子解析の結果、*Runx2*は *Rankl*を抑制的に制御することで骨芽細胞分化を促している可能性があるという結果を得ましたので、報告いたしました。今後さらに iPS細胞から骨芽細胞への分化メカニズムを解明し、遺伝子を制御するなどの方法により患者自身の組織から作製した iPS細胞を骨芽細胞に効率的に分化させ、効果的で予知性の高い歯周組織再生療法を可能にする事ができると考えております。また、歯周治療以外にも *Runx2*ヘテロ変異を原因とする鎖骨頭蓋異形成症などの遺伝子疾患の病因解明にもつながると考えております。

本学術賞の選考過程で先生方からいただいた貴重なご意見を糧とし、研究をさらに発展させるべく、精進してまいります。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり御指導いただきました東京歯科大学歯周病学講座の齋藤淳教授、生化学講座の東俊文教授ならびにご協力とご助言をいただきました全ての先生方に心より感謝申し上げます。

2. 2017年度学術奨励賞を受賞して

金子 児太郎
(昭和大学歯学部口腔生化学講座)

この度、東京の昭和大学で開催された第65回国際歯学研究学会日本部会 (JADR) にて発表しました「8-Nitro-cGMP, a novel downstream signaling molecule of nitric oxide, suppresses mineralization by osteoblasts and enhances differentiation of osteoclasts」という演題に対し、2017年度学術奨励賞を受賞させていただきました。このような素晴らしい賞を頂き、大変光栄に存じます。JADR会長の山崎和久先生、大会長の上條竜太郎先生をはじめ関係諸先生方に心より感謝申し上げます。

ガス状メディエーターである一酸化窒素 (NO) は血管拡張、免疫、神経伝達など生体内でさまざまな働きをしていることが知られています。ガス状メディエーターである NO は生体内では環状グアノシンーリン酸 (cGMP) をセカンドメッセンジャーとして働きます。近年、NOの新しいセカンドメッセンジャーとして 8-Nitro-cGMPが発見されました。8-Nitro-cGMPの働きについては報告が少なく、生体内での働きは知られていないことが多いです。私は以前より硬組織に関する研究を行ってきたことから、この 8-Nitro-cGMPの硬組織への働きについての研究を行っています。この度の発表では、8-Nitro-cGMPが骨芽細胞と破骨細胞に及ぼす影響について発表させていただきました。8-Nitro-cGMPは cGMPと同量近く発現するという報告もあるので、NOの生体内での働きを解明するため、8-Nitro-cGMPの働きを解明することが今後重要になっていくと思われまます。

今回の発表は普段のポスター発表とは違い、選考委員の先生方の前で一人ずつ発表する形式で、なおかつ慣れない英語での発表だったのでとても緊張し、不甲斐ない発表になってしまいました。しかし、自分の能力の現状を把握することができ、英語の勉強を含め、より一層努力が必要なことを気が付かせて頂ける良い機会でありました。本発表の経験を生かし、さらなる能力の向上に努めていきたいです。

最後になりましたが、本研究に対してのご指導いただきました昭和大学歯学部口腔生化学講座上條竜太郎教授、宮本洋一准教授、東京医科大学医学部口腔外科学分野近津大地教授ならびにご協力いただきました全ての先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

3. 2017年度学術奨励賞を受賞して

仲 周平
(岡山大学病院小児歯科)

この度、第65回JADR学術大会において発表致しました「Long-term observation of *Streptococcus mutans*-induced aggravation of non-alcoholic steatohepatitis in mice」という演題に対して、2017年度学術奨励賞を受賞することができました。このような賞を与えていただきましたことを大変光栄に思います。

近年、全身疾患と口腔細菌との関連について数多くの研究報告がなされています。これまでに、齲蝕の主要な病原細菌である *S. mutans* の一部の菌株が非アルコール性脂肪肝炎 (Non-alcoholic steatohepatitis; NASH) の増悪化に関与している可能性を明らかにしてきました。*S. mutans* の菌体表層には歯面への初期付着に関与する分子量約190kDaのProtein Antigen (PA)が存在し、菌株によって分子量約120kDaのコラーゲン結合タンパク (Cnm) が発現しています。これら2つのタンパクを同時に発現する菌株では、Cnmを介して肝臓細胞に付着し、PAを介して肝臓の脂肪酸と結合することで、肝臓への菌の付着が有意に増加することが示されました。

本研究では、*S. mutans* の血液中への投与による肝臓の病態変化を経時的に細かく観察しました。特に、NASH発症マウスに肝臓の組織変化を画像解析ソフトにより定量的に評価することで、*S. mutans* のもたらすNASH増悪化のメカニズムの詳細を明らかにしました。本研究の成果は、これまでに明らかとなっていなかったNASHの病原メカニズムのうち *S. mutans* が関連することを明らかにすることで、新たなリスク因子を有する患者の早期スクリーニング法の確立が期待され、それらに対する予防的アプローチ確立においても大変意義があることと考えています。今後は、より臨床に近いモデルでの検討および臨床への応用を目指したいと思います。

今回の学会では、ポスタープレゼンテーションの際、多くの先生方と活発なディスカッションを行うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の受賞を励みにして、今後も *S. mutans* によるNASHをはじめとする全身疾患の病原メカニズムの解明のため尚一層努力してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、様々な機会を与您いただき、御指導くださいました大阪大学大学院歯学研究科 仲野 和彦 教授、岡山大学大学院医歯薬総合研究科小児歯科学分野 仲野 道代 教授、ならびに御協力いただいた諸先生方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

4. 2017年度学術奨励賞を受賞して

前菌 葉月
(大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座
(歯科保存学教室))

この度、第95回JADR学術大会にて発表いたしました「Effect of concentration / application time of sodium hypochlorite using *ex vivo* polymicrobial biofilm model」という演題に対し、2017年度学術奨励賞を受賞致しました。このような賞を賜りましたことを大変光栄に思いますと共に関係各位に深く感謝申し上げます。

バイオフィームとは、不活化された表面または生きた表面に付着した微生物が産生する菌体外多糖で囲まれた微生物の集合体と定義され、口腔内に形成されたオーラルバイオフィームは、う蝕や歯周炎など、多くの歯科疾患の原因となっています。本研究では、オーラルバイオフィームを制御し、克服するための制御法を開発する足掛かりとして、口腔内サンプルを用いた *ex vivo* のバイオフィームモデルを開発し、そのモデルを用いて作製したバイオフィームについての観察を行いました。その結果、バイオフィームは経時的に厚みを増すとともに構造が複雑化すること、また薬剤抵抗性を獲得することを報告いたしました。

ポスターディスカッションによる審査の際には、それぞれの参加者の緊張感が伝わってくる前室で、その張り詰めた空気に私も例外なく緊張しましたが、ポスター発表が始まると、後は野となれ山となれという心境に達し、発表自体を楽しむことができました。後のディスカッションでは多くのご質問やご指摘をいただき、研究を続けていく上でのモチベーションをさらに上げることができました。会員懇親会にて審査結果が発表された際には激励のお言葉を様々な先生方より頂戴し、感激するとともに身の引き締まる思いがいたしました。

今回の発表は私にとって久々の学会発表であり、発表に至るまでの準備の難しさや大変さを改めて認識するいい機会となりました。また、他大学の先生方の活発な研究に触れ議論を交わせたこと、そして学術奨励賞をいただけたことは、私にとって忘れられない財産となりました。

今回の受賞を励みにし、オーラルバイオフィームの動態についてさらに詳細に解明し、その制御法を開発すべく、今後とも日々研究に精進していきたいと思っております。最後になりましたが、発表にあたり多くのご指導をいただきました大阪大学・林美加子教授ならびにご協力頂きました多くの先生方に心より感謝申し上げます。

5. 2017年度学術奨励賞を受賞して

山田 実生

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野)

この度、昭和大学にて開催されました第65回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会におきまして『Beneficial role of a microbial metabolite on gingival epithelial barrier』という演題で発表させていただき、2017年度JADR/GC学術奨励賞を受賞いたしました。歴史のある学会でこのような榮譽ある賞を賜りましたことを大変光栄に存じます。JADR会長山崎和久先生、大会長上條竜太郎先生をはじめ、関係の諸先生方に心より感謝申し上げます。

我々は歯周病と全身疾患の関連について、腸内細菌叢に注目してこれまで解析を進めてきました。嚥下された歯周病原細菌 *P.gingivalis* が腸内細菌叢の構成異常を誘導することで腸管バリア機能を低下させ、病原因子が全身性に悪影響をおよぼすことを明らかにしました。細菌由来の代謝産物は様々な細胞機能制御に関わることが知られており、乳酸桿菌 *Lactobacillus* が脂質代謝過程で産生する機能性脂肪酸HYAは、腸管バリアの保護作用を持つことが近年報告されています。我々はヒトの唾液中にもHYAが存在していることを既に確認しており、歯周炎の発症・進行におけるHYAの関与について、歯肉バリア機能を中心に解析を行いました。その結果、*P.gingivalis* 刺激による歯肉上皮バリア機能低下に対して、HYAが抑制的に働くことを *in vitro* で明らかにしました。また歯周炎モデルマウスにHYAを投与することで同様の結果が得られた上に、歯周組織における炎症性サイトカイン産生も低下していたことから、HYAが歯周炎の発症・進行を抑制することが示唆されました。

これまでの歯周病予防の研究の多くは歯周病原細菌をいかに減らすか、または歯周組織の炎症をいかに抑えるかをターゲットとしてきました。しかし本研究では歯肉上皮バリア機能を強化するという新たな視点に着目し、歯周病予防・治療薬の開発に貢献し、さらには全身疾患を予防しうものご期待しています。

本学会での発表・質疑応答はすべて英語で行われるため、研究内容をきちんと説明できるか、質問に答えることができるかと不安と緊張の連続でしたが、発表会場では先生方からのご質問のみならず、多くのアドバイスをいただくことができ、大変貴重な機会となりました。この経験を活かし、一層研究に精進していきたいと存じます。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導くださいました新潟大学大学院医歯学総合研究科山崎和久教授、吉江弘正教授、高橋直紀特任講師ならびにご協力いただきましたすべての先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

IV. JADR/Joseph Lister Award を受賞して

1. 2017年度 Joseph Lister Award を受賞して

趙 継美

(広島大学歯学部歯学科5年)

この度、第65回JADR総会・学術大会において、「Galectin-3 is possible predictive/diagnostic biomarker of spontaneous preterm birth caused by placental infection」という演題で発表する機会をいただくとともに、2017年度Joseph Lister Awardを受賞いたしました。学部学生という立場で学会発表という貴重な経験ができ、歴史のある本学会でこのような賞をいただくことができ、大変光栄で、嬉しく思っております。学会会員ならびに諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は、4年生より学部開設された最先端歯学研究コースを選択し、口腔顎顔面病理病態学教室で先生方のご指導のもと、約2年にわたり興味があった口腔疾患と全身の健康状態との関連について研究を続けて参りました。研究に必要な思考力などを身につけたいという気持ちがあって選択した研究でしたが、続けるうちに、研究をコンスタントに続ける大変さを経験しました。予想される結果にならず、原因を考え、条件を検討し、実験を重ねることは、初心者である自分には難しく、先が見えないと感じることもありました。しかし、その中で結果が出せたときは本当に嬉しく、達成感を感じるとともに、さらに多くの結果を出し、まだ分かっていないことを追求したいと感じました。

私は、*in vivo*, *in vitro* の実験を通して、歯周病が早産を引き起こすメカニズムの一つとして、*Porphyromonas gingivalis* (*Pg.*) が胎盤細胞に感染し、早産関連因子の発現を促進するとともに胎盤細胞のアポトーシスを引き起こすことを明らかにしました。また、ヒトの血清を用いてGal-3値の比較検討を行い、自然早産症例の母体では血清中のGal-3が増加していたことから、血清中のGal-3値が細菌感染による自然早産の予測・診断マーカーとなる可能性を示しました。本大会では、以上の研究成果をまとめて報告致しました。発表の際には、多くの先生方にご質問やご助言をいただき、自分の知識や考えを深めるとともに新たな課題に気づくことができました。今後、より多くの症例で血清を用いた詳細な検討を進め、自然早産と血清中のGal-3値との関連を明らかにし、未だ確立した予防・診断法が存在しない早産に対する新しい予防・診断法を開発の糸口として歯科分野から役立つことができるよう、研究を続けていきたいと思っております。

研究を通じて得た知識や考え方、また結果を形にして発表するという経験は、今後の自分の将来において、大きな糧となると確信しております。最後になりましたが、研究に対し

て一からご指導いただき、貴重な機会を与えてくださった口腔顎顔面病理病態学教室の高田隆教授、宮内陸美准教授、古庄寿子助教、そして研究室の皆様に、心より感謝申し上げます。

2. 2017年度 Joseph Lister Award を受賞して

堺 裕彦

(大阪大学歯学部5回生)

2017年11月に東京にて開催されました、第65回JADR学術大会における発表演題「Incorporation of rechargeable antimicrobial-releasing polymer particles into PMMA resins」に対し、2017年度 Joseph Lister Award を受賞させて頂きましたことを大変光栄に存じます。また、学部学生の中に、このような貴重な機会を得ることが出来たことを大変有難く思います。

私は、大阪大学歯学部3年次の2015年11月より、学部科目である基礎配属実習の一環として、歯科理工学教室におけるCPC担持ポリマー粒子の各種レジン系材料への応用に関する研究プロジェクトに参画することとなりました。そして、同プロジェクトの中のひとつのテーマである「義歯床用レジンへの応用」に強い興味を抱き、基礎配属実習終了後も約2年間実験を継続し、今回の成果発表に至りました。

本研究では、歯科理工学教室が開発したHEMAと多官能架橋性モノマーTMPTからなる非生体吸収性ポリマー粒子に抗菌剤であるCPCを担持させたものを、PMMA系義歯床用レジンに配合し、CPCの溶出性とリチャージ特性、ならびに*Candida albicans*の付着抑制効果について評価しました。その結果、義歯床用レジンからの*C. albicans*に対する有効濃度以上のCPC溶出を維持できるリチャージプロトコルを確立し、これによりレジン表面への*C. albicans*の付着を抑制できることが明らかとなりました。CPC担持ポリマー粒子を配合し、リチャージによって義歯床からの持続的なCPC徐放が可能であることを報告した今回の研究成果は、従来からの課題であった長期的な抗菌性を発揮する義歯床用レジンの実現に向けた大きな一歩であると考えられます。本研究をさらに進展させ、デンチャーブラークの堆積に起因するさまざまな疾患の予防に役立つ義歯床用レジンが実用化できれば、セルフケアに問題を抱える高齢者の健康の維持・増進に貢献できることとなると期待されます。

研究の「け」の字も知らなかった私ですが、この2年間の研究活動を通じて、自分で考えて実験することの面白さを感じることができました。また、今まで誰もしたことがないような着眼や発想ができれば、自分で新しい研究分野を開拓することができ、自分が第一人者になれる可能性があるというところに強く魅力を感じました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えて

頂いた大阪大学大学院歯学研究科歯科理工学教室の今里聡教授、丁寧な指導と様々なアドバイスを頂いた北川晴朗助教、様々な実験を共にしてくれた同級生の中西啓太君にこの場をお借りして心より感謝致します。

3. 2017年度 Joseph Lister Award を受賞して

南 えりか

(昭和大学歯学部)

2017年11月18日～19日、昭和大学で開催されました第65回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会におきまして、「Molecular mechanisms of palatal development controlled by Cdc42」の演題名でポスター発表をし、2017年度JADR/Joseph Lister Awardを受賞させて頂きました。このような榮譽ある賞を賜りましたこと大変嬉しくまた光栄に感じるとともに、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

研究を始めるきっかけは、私が在籍している昭和大学歯学部の上條竜太郎教授の講座(口腔生化学講座)で顎顔面形成に関する研究をされていることを知り、唇顎口蓋裂の研究に興味を持っていたことから、研究をさせてほしいと相談させて頂いたことでした。最初は研究がどのようなものか何も分からない状態からスタートしましたが、口腔生化学講座の先生方の丁寧な御指導の下、研究を基礎の基礎から教えていただき、研究の楽しさだけではなく大変さも経験することができました。

今回の研究では、Rhoファミリー低分子量Gタンパク質の1つCdc42を組織特異的に欠損させたコンディショナルノックアウトマウスで口蓋裂および顎顔面形成に異常が認められる分子メカニズムを検討するために、マイクロアレイ法を用いた遺伝子発現様式の網羅的解析を行いました。今回の結果を臨床にすぐに結びつけることは難しいと思いますが、何らかの形で将来、臨床応用されたらと考えています。

ポスター発表では、英語で内容を正しく伝える難しさを実感し、これからも勉強や研究だけでなく語学力も高めなければと感じました。発表後も研究内容について他大学の先生方と議論することができ、とても有益なご指摘をいただくことができました。同時にJADR/Joseph Lister Awardを受賞した他大学の学生の方々との出会いにも感謝しております。

最後になりましたが、ご指導・ご協力いただきました昭和大学歯学部口腔生化学講座の上條竜太郎先生、山田篤先生、講座の皆様、国際交流センターの橋本みゆき先生、Mike Myers先生、平泉由香先生、そして多くの協力して下さった方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

+++++

V. JADR Travel Award を受賞して

1. JADR Travel Award 2017

Seung-Ki Min

(Oral Oncology Clinic, National Cancer Center, Korea)

I deeply thank all the JADR members and executives for inviting me to the 65th JADR meeting and giving me such an honorable prize. It was my great opportunity to introduce my works, which concerns miRNAs involved in oral keratinocyte senescence and oral squamous cell carcinomas, to the colleagues in Japan. I especially appreciate the people who showed interest to my poster presentation.

The symposiums and special lectures were inspirational. Even though some time has lapsed, I remember myself being astonished to learn about space medicine which I've never thought of before. Honestly, bisphosphonates were always just a problem maker to me, but now I learned that they are even useful in space! Various disease modeling using iPS cells interested and inspired me as oral squamous cell carcinoma modeling is also a big task requiring attention. As a surgical oncologist, I hope to attend a comprehensive symposium by dentists on oral cancer in the near future. I also hope collaboration between Asian dental researchers prosper.

Thank you for giving me the opportunity to join the JADR meeting!

2. JADR Travel Award 2017

Mihiri Silva BDSc, MDSc, DCD

(Paediatric Dentist, PhD Candidate

Murdoch Childrens Research Institute School of Paediatrics
University of Melbourne Royal Children's Hospital)

It was a great honour to be the Australia/New Zealand Division recipient of the Japanese Association for Dental Research Travel Award for the 65th Annual meeting of the JADR in Tokyo. My poster, titled "Prevalence and severity of Hypomineralised Second Primary Molars in Australian twins" described the prevalence and severity of a common developmental defect of enamel affecting the second primary molars in a cohort of twin children. It is part of a wider PhD project investigating the role of genetics and environment on dental conditions in childhood. The research presented at the conference, by both the local and overseas presenters was of a very high calibre. It was a fantastic opportunity to make connections with researchers from throughout the Asia Pacific region.

It was a pleasure to visit the beautiful, vibrant city of Tokyo for the first time. I greatly appreciated the warm hospitality provided by the JADR and delegates at the meeting. Indeed, travelling with two young children, my family met friendly and helpful locals throughout our stay and return with very fond memories of our brief, but pleasant stay.

Thanks to the JADR for the opportunity and I look forward to continuing my links with Japan in the future.

3. JADR Travel Award 2017

Yan Liu

(Associate Professor, Peking University School of Stomatology)

I came to Japan to join the 65th Annual Meeting of JADR, as a representative of the Chinese Division of the International Association of Dental Research. It is my first time to visit Tokyo and I have always been impressed with people's hospitality and beautiful city.

This meeting combines international academics from the basic to clinical research themes on oral and dental area. It was the perfect opportunity for me to present my work "Hierarchically staggered nanotopography regulates macrophage polarization to promote bone regeneration", discuss and intermingle with the young students and researcher fellows. What impressed me most is the discussion with Dr. Keitaro Inaba, who is from Kanagawa Dental University. We talked about a lot including how to do research, how to present research and how to choose a journal.

After poster presentation in the morning, I attended the Symposium on osteoporosis of astronauts in space and learned a lot. All in all, I took a lot of inspiration from the research presented at JADR.

Later during the evening, I attended members' reception and the award ceremony. The reception party had a great taste and aroma of Japanese food. I also made new friends from Australia, Korea, India and Japan during the conference, and we will meet again in 2018 IADR meeting.

Thank you JADR for the opportunity.

4. Japanese Association for Dental Research (JADR) Travel Award 2017:

Dr. Kaushal Kishor Agrawal, MDS
(Assistant Professor, Dept. of Prosthodontics, King Georges
Medical University, Lucknow, India.)

It was a pleasure to attend the JADR annual meeting in Showa University 1-5-8 Hatanodai Shinagawa-ku Tokyo 142-8555 Japan from 18th- 19th November 2017. I attended this meeting in this premise on behalf of my nomination by Indian society for Dental Research (IADR) for JADR travel award.

I presented a scientific poster on my clinical research for dental implants and discussed with other travel award winners from China, South Korea and Australia regarding dental education program in their country and their research Centre units. I along with other travel award winners, received JADR travel award certificate with cash prize of 70000/- yen in a wonderful reception organized by JADR organizing committee. I was highly impressed with the hospitality of the people and the beauty of the country.

I got the opportunity there to listen the scientific session of various eminent speakers Dr. Angus William G. Walls (IADR), Dr. Seong-Ho Choi (Korean Division of the IADR (KADR)), Dr. Harry-Sam Selikowitz (FDI World Dental Federation), and Dr. Irma Thesleff (University of Helsinki) who shared with us their future outlook in regard to dental science. A symposium organized by JADR on biomedical researches performed in the international space station was very interesting and admirable.

At last, I am highly thankful to ISDR and JADR for providing me this great opportunity. It was your support by which I got such amazing and valuable scientific and research international experience.

VI. 理事会, 評議員会および総会報告

JADR 会長 山崎 和久
(新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔保健学分野)

2017年度は、理事会が4回(2月27日, 5月22日, 8月28日, 11月17日)開催されました。

評議員会・総会は、第65回 JADR 学術大会時の11月18日に、会場である昭和大学旗の台キャンパス(東京都品川区)において開催されました。冒頭で評議員会成立のための定足数を満たしていることが確認され、また、安彦善裕先生(北海道大学)ならびに吉田靖弘先生(北海道大学)が議事録署名人として選出されました。

以下評議員会および総会において決定された2018年度の事業計画などについて報告いたします。

1) 2018年度事業計画

以下の2018年度事業計画が提案され承認されました。

理事会：4回開催(2, 5, 8, 12月)

評議員会・総会：第66回評議員会・総会開催日時(11月)

学術大会：第66回学術大会(11月；北海道大学 クラーク会館)

各種委員会：JADR/GC 学術奨励賞選考委員会

Newsletter：年2回発行(3月, 9月発行予定)

Mail News：年4回程度を予定

日本歯科医学会理事会出席(陪席)

次期会長(2021-2022)選挙

KADR 学術大会へ講師派遣

IADR 2018年度 Council Meetingへ役員を派遣

APR 2018年度 Board Meetingへ役員を派遣

2019年度 IADR Hatton Award 候補者選考

IADR Vice President 候補者を IADR 本部へ推薦

IADR 各種 Committee 委員へ JADR 会員を推薦

IADR 本部へ JADR Annual Report を提出

2) 2016年度会計決算(案)および監査報告について

中村会計理事より、2016年度会計決算(案)について説明があり、原案が満場一致で承認されました。また、村上監事、高橋監事より会計監査を行い適正かつ公正に処理されているとの報告がなされました。

3) 終身会員推挙について

会則に従って、以下の会員(敬称略)が理事会より終身会員として推薦され、評議員会および総会において承認されました。

(敬称略)

前田 芳信 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座

松本 裕子 日本大学松戸歯学部薬理学教室

山田 敏元 虎の門病院歯科

4) 2018 Hatton Awards 候補者の紹介

2017年度第4回理事会で決定された、2018 IADR London 大会 Hatton Awards 日本代表候補者3名(五十音順, 敬称略)が紹介されました。

Senior Basic Science Category

庄司 あゆみ

(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野)

吉本 怜子

(九州大学大学院歯学府 口腔機能修復学講座歯周病学分野)

Junior Category

関 遥

(鹿児島大学歯学部3年生 / 歯科機能形態学分野)

冬の気配が感じられる季節となり、道内各地からは初雪の便りが聞かれるようになります。紅葉は既に盛りを過ぎる11月の北海道ですが、晩秋から初冬へと移り変わる大自然が楽しめる月です。そして冬の味覚を楽しむことができる季節でもあり、皆様の多数のご参加を期待しております。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

会 期：2018年11月17日(土)～11月18日(日)

会 場：北海道大学 クラーク会館

〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目

大会テーマ：Back to the tangible -the symbiosis of basic research and clinical dentistry-

大 会 長：佐野 英彦

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野
歯科保存学教室)

準備委員長：星加 修平

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野
歯科保存学教室)

大会ウェブサイト：<http://jadr66.umin.jp>

Ⅶ. 第66回国際歯科研究学会日本部会(JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 佐野 英彦

(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野
歯科保存学教室)

皆様に於かれましては益々清栄のこととお慶び申し上げます。平素より種々にわたりましてご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、第66回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会の大会長に推挙され、もとより微力ではございますが、本学術大会を少しでも実り多いものにするため全力でこの重責を果たす所存です。本学術大会は、“Back to the tangible - the symbiosis of basic research and clinical dentistry”をテーマに、平成30年11月17日(土)18日(日)の日程で、北海道大学構内のクラーク会館にて開催させていただき運びとなりました。

臨床と基礎研究の架け橋である国際歯科研究学会(IADR)における日本部会(JADR)総会・学術大会は、研究成果の臨床展開と臨床課題の問題提起が具体的に現れる場であり、かつて本学の前身である札幌農学校を卒業した新渡戸稲造は、「我、太平洋の橋とならん」と言葉を残し、のちに国際連盟の事務総長を務めるに至りました。今一度、臨床と基礎研究の架け橋となるような皆様の発表を期待しております。

大会開催時期の札幌では最低気温が平均零度と、一足早く

基調講演「The roles of cellular senescence in aging and cancer

(老化とがんにおける細胞老化の役割)」

座 長：佐野 英彦 (北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野 歯科保存学教室)

講演者：高橋 暁子 (がん研究所)

特別講演Ⅰ「演題未定」

座 長：未定

講演者：Prof. Rena D' Souza, President of IADR

特別講演Ⅱ「演題未定」

座 長：未定

講演者：Prof. Jin-Bom Kim, President of KADR

Chair and Professor, Department of Preventive and Community Dentistry, School of Dentistry, Pusan National University

シンポジウムⅠ「New Era of Oral Medicine」(口腔内科学の新時代)

座 長：

中村 誠司 (九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)

北川 善政 (北海道大学大学院歯学研究院口腔医学部門 口

腔病態学講座)

講演者

- 1) 「New insights into salivary gland diseases associated with systemic diseases」
(全身疾患に関連する唾液腺疾患の新しい理解)
中村 誠司 (九州大学大学院歯学研究院口腔顎顔面病態学講座顎顔面腫瘍制御学分野)
- 2) 「The cutting edge of pemphigoid -close relationship between dentists and dermatologists reveals the pathogenesis and a novel diagnostic method-」
(類天疱瘡の最前線～口腔診断内科と皮膚科の相互連携により見えてきた類天疱瘡の病態と新しい診断法～)
北川 善政 (北海道大学大学院歯学研究院口腔医学部門 口腔病態学講座)
- 3) 「Burning mouth syndrome: Is it a neuropathic condition?」
(口腔灼熱症候群は神経障害性疼痛か?)
今村 佳樹 (日本大学歯学部口腔診断学講座)
- 4) 「Therapeutic Regenerative Medicine」
(内科治療学的な再生医療)
日比 英晴 (名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻頭頸部感覚器外科学講座)

シンポジウムⅡ 「Current Topics of Prosthodontic Treatment using Partial Dentures」 (パーシャルデンチャーの最新のトピックス)

座 長：横山 敦郎 (北海道大学大学院歯学研究院 口腔医学部門口腔機能学講座)

講演者：

- 1) 「New design concept and material selection in removable partial prosthodontics」
(部分床義歯補綴学の新しい設計と材料選択)
若林 則幸 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科部分床義歯補綴学)
- 2) 未定
- 3) 「Removable partial dentures supported by dental implants.」
(パーシャルデンチャーへのインプラントの応用)
古谷野 潔 (九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座)

シンポジウムⅢ 「Frontiers of adhesive dentistry: new discoveries promise a bright future」

(接着歯学研究のフロンティア - 新しい発見と目指すべき未来)

座 長：林 美加子 (大阪大学歯学部歯科保存学講座)

講演者：

- 1) 「Creating the “Super Tooth” by the adhesive technology」

(接着技術による“Super Tooth”の創出)

田上 順次 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
う蝕制御学分野)

- 2) 「Incoming bond strength evaluation - Change from quantitative examination to qualitative investigation -」
(これからの接着強さ評価 - 量的検証から質的検討への変化)
奈良 陽一郎 (日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座)
- 3) 「Adhesion to new CAD/CAM composite resin blocks」
(新しい CAD/CAM コンポジットレジンブロックに対する接着)
疋田 一洋 (北海道医療大学医療科学センター)

シンポジウムⅣ 「Advances in Clinical Dentistry Resulting from Basic Science Discoveries - Lessons from Dental Materials Research」

座 長：今里 聡 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再
建学講座 (歯科理工学教室))

講演者：

- 1) 「Dental Composites - A True Disruptive Change in Dentistry」
Prof. Jack L. Ferracane
(Department of Restorative Dentistry Oregon Health & Science University, Oregon Health and Science University)
- 2) 「Can we trust the success of adhesive restorations to the bonded interface?」
Prof. Ricardo M. Carvalho
(Department of Oral Biological and Medical Sciences Faculty of Dentistry University of British Columbia)
- 3) 「Durability of Adhesive Bond and Clinical Success of Composite Restorations」
Prof. Masashi Miyazaki
(Department of Operative Dentistry Nihon University School of Dentistry)

演題登録期間：2018年6月中旬～8月中旬 オンライン登録

* IADR サイトおよび UMIN サイトにてご登録いただきます。

事前参加登録締切：2018年9月28日(金) (予定)

Ⅷ. 第96回 IADR 学術大会開催レポーター募集 (2018年度 IADR, London, UK)

2018年7月25日(水)～28日(土), (London, U.K.)で第96回 IADR 総会・学術大会が開催されます。つきましては、JADR 会員の先生方から IADR 大会の様子など9月発行予定の JADR Newsletter 第2号にご紹介いただきたくご案内いたします。総会へ初めて参加される方からでも大歓迎です。

レポーターをお引受けいただける先生は、大会報告を8月24日(金)までに原稿を事務局へお送り下さい。多数お待ちしております。

字数：1200字程度 締切：8月24日(金)

執筆内容：第96回 IADR San Francisco 大会に各自が参加した分野の報告。シンポジウム、ポスター、口頭発表などから自由に記載(過去のニュースレター参照)

原稿送付方法：TEXT file か MS WORD で、E-mail にて事務局へ送付

Ⅸ. IADR Hatton Award 応募候補者 (2019年度 IADR, Vancouver, BC, Canada, 97th General Session & Exhibition of the IADR) の募集

2019年度の Hatton Awards 応募候補者を募集します。応募ご希望の方は6月以降に Website に掲載します応募要領をご覧の上ご応募下さい。

本賞は第10代 IADR 会長 Edward Hatton 博士の功績をたたえて設けられた若手研究者を顕彰するための賞です。応募カテゴリーは、Junior 部門、Senior- Basic Science 部門、Senior-Clinical Research 部門の3部門です。各 Division から推薦を受けた候補者は第97回 IADR 総会の前日に行われる Hatton Awards 本選にて審査を受け、各部門上位2名が順位付けで受賞者に選ばれます。

なお、各部門への応募資格と研究内容の区分は、以下のようになります。

Junior 部門：

歯学部学生による研究発表です。歯学部在籍中に行った研究が対象となります。基礎研究、臨床研究を問いません。

Senior 部門：

大学院在籍者、研究生、専攻生等による研究発表です。

博士号既得者の場合、本選時に博士号取得後3年以内であれば応募できます。

Senior 部門は、下記2つの分野に分かれます。

- ・ Basic Science Research: Involving laboratory or animal research
- ・ Clinical/Pre-clinical Research : Involving research on human subjects and/or epidemiologic studies

CONTENTS

I. 第36回 IADR 韓国部会 (KADR) 学術大会に参加して 山崎 和久	1	I. Report of the 36th KADR academic meeting Dr.Kazuhisa Yamazaki: JADR President	1
II. 第65回 JADR 学術大会報告	3	II. Reports of the 65th JADR General Session	3
1. 第65回国際歯科研究学会日本部会総会・ 学術大会を終えて 上條竜太郎	3	1. Reports of the 65th JADR General Session Dr.Ryutaro Kamijo: Chairman of the 65th Annual Meeting of the Japanese Division of the IADR (JADR)	3
2. シンポジウムⅠ報告 高柴 正悟	3	2. Symposium I Dr.Seigo Takashiba: Okayama Univ.	3
3. シンポジウムⅡ報告 工藤 明	4	3. Symposium II Dr.Akira Kudo: Showa Univ.	4
4. シンポジウムⅢ報告 馬場 一美	4	4. Symposium III Dr.Kazuyoshi Baba: Showa Univ.	4
III. JADR/GC 学術奨励賞を受賞して		III. 2017 JADR/GC Young Investigator Award	
1. 青木 栄人	5	1. Dr.Hideto Aoki: Tokyo Dent. College	5
2. 金子兎太郎	5	2. Dr.Kotaro Kaneko: Showa Univ.	5
3. 仲 周平	6	3. Dr.Shuhei Naka: Okayama Univ.	6
4. 前菌 葉月	6	4. Dr. Hazuki Maezono: Osaka Univ.	6
5. 山田 実生	7	5. Dr. Miki Yamada: Niigata Univ.	7
IV. JADR/Joseph Lister Award を受賞して		IV. 2017 JADR/Joseph Lister Award	
1. 趙 継美	7	1. Dr.Keimi Chou: Hiroshima Univ.	7
2. 堺 裕彦	8	2. Dr.Hirohiko Sakai: Osaka Univ.	8
3. 南 えりか	8	3. Dr.Erika Minami: Showa Univ.	8
V. JADR Travel Award を受賞して		V. 2017 JADR Travel Award	
1. Seung-Ki Min	9	1. Dr.Seung-Ki Min: National Cancer Center, Korea	9
2. Mihiri Silva	9	2. Dr.Mihiri Silva: University of Melbourne Royal Children's Hospital	9
3. Yan Liu	9	3. Dr. Yan Liu: Peking University School of Stomatology	9
4. Kaushal Kishor Agrawal	10	4. Dr.Kaushal Kishor Agrawal: King Georges Medical University, Lucknow, India	10
VI. 理事会、評議員会および総会報告	10	VI. Report of the Board Meeting, Annual Business Meeting and the Councilor Meeting	10
VII. 第66回 JADR 総会・学術大会のご案内	11	VII. Announcement of the 66th JADR General Session	11
VIII. 第96回 IADR 学術大会開催レポーター募集 (2018年度 IADR, London, UK)	13	VIII. Call for Reports of the 96th IADR General Session in London, UK	13
IX. Hatton Award 応募候補者 2019 年度 (第97回 IADR, Vancouver, BC, Canada) 公募募集	13	IX. Call for the Hatton Awards Competitors of the 97th IADR General Session in Vancouver, BC, Canada from JADR	13

●編集後記●

今年の2月、3月は、平昌オリンピック・パラリンピックで日本中が大いに盛り上がりました。日本人選手の活躍は目覚ましく、4月を迎えようという現在もテレビニュースを賑わしている程です。一方、今号のニュースレターは、巻頭に、昨年12月に山崎会長がKADRに特別講演の演者として招聘された際の報告記事を掲載させていただきました。通常の「会長巻頭言」以上に、山崎先生のリーダーシップと国際センスが感じられる素晴らしい内容です。この調子で、JADRの皆様には、7月のロンドンでのIADR大会や、11月の札幌での第66回JADR学術大会でぜひ熱いご活躍をいただきますよう、よろしくお願い致します。